



慰霊の花火 瀬戸内の夜空を彩る

国立療養所長島愛生園 第49回夏祭り・慰霊の花火大会

7月25日、国立療養所長島愛生園で「第49回夏祭り・慰霊の花火大会」が開催されました。毎年、亡くなった入所者の魂を慰めるために打ち上げられます。今年も瀬戸内海の夜空を2,000発の花火が美しく彩りました。

今年はコロナ禍以降4年ぶりに、フランクフルト、たこ焼き、かき氷などの屋台が18店並び、子どもから大人まで多くの来場者で賑わいました。

海上から花火が打ち上がる度、会場に歓声が上がりました。最後のフィナーレの花火が終わった瞬間、大きな歓声と拍手で締めくくられました。

長島愛生園入所者自治会 中尾伸治会長は「この花火大会は外部の人との交流の場でもある。入所者の皆さんもとても楽しみにしている行事の一つ」と話しました。

心地の良い風が吹くなか、楽しい夏のひとときを過ごしていました。



たくさんの人と出会い、かけがえのない3年間に

フランス人国際交流員が退任



国際交流員のドルメン・メリッサさん(令和3年10月着任)が任期を終えて7月31日に退任しました。

ドルメンさんは一般財団法人自治体国際化協会のJETプログラム(外国青年招致事業)によりフランスから来日し瀬戸内市に赴任。外国人に向けた広報活動を中心に、備前長船刀剣博物館や外国人相談窓口での通訳、インフルエンサーを招き市の魅力を海外へ発信するツアーの実施、小・中学校や公民館などでのフランス語講座、地域のイベントへのマルシェの出店など、幅広い業務・企画に携わりました。

退任のあいさつで「瀬戸内市での国際交流員の仕事を通じて多くのことを勉強し、たくさんの人と出会い、自分も成長できた。皆さんにとっても親切にしてもらい、かけがえのない3年間になった」と笑顔で話しました。

いつまでもお元気で

100歳を迎えた高齢者をお祝い

6月21日に満100歳を迎えた赤枝知恵子さん(邑久町尾張)のお祝いに、6月24日、武久市長らが自宅を訪問しました。赤枝さんは家族とともに祝い状を受け取りました。

赤枝さんは大阪で生まれ育ちましたが、戦況の悪化に伴い両親の出身地である牛窓町に移り住みました。結婚後は自動車整備工場を開業した夫を支えました。会社を息子に譲ったのちは夫と友人夫婦とで国内旅行を楽しみました。長寿の秘訣は「よく食べよく眠ること、ストレスをためないこと」。

また、7月1日に満100歳を迎えた青山梅子さん(長船町磯上)のお祝い会が入居している施設で開かれ、武久市長らが駆けつけました。青山さんは家族、入居者や職員の祝福を受けながら祝い状を受け取りました。

5人きょうだいの長女として生まれ、結婚後は農業で生計を立てていた青山さん。規則正しく几帳面な性格で、家も庭もきれいにしているそうです。信仰心が厚く、自宅近くの教会所にお祈りに通ったり、近くの公会堂で行われているはつらつ体操に長く通ったりして過ごしていました。長寿の秘訣は「暴飲暴食をしないこと、はつらつ体操で身体を動かすこと」。

赤枝さん、青山さん、これからもますますお元気で過ごしてください。



▲武久市長とともに記念撮影する赤枝さん



▲武久市長とともに記念撮影する青山さん

認知症は早期発見・早期対応が大切です

認知症初期集中支援チームによるサポートをしています！

認知症は、誰にでも起こりうる脳の病気です。適切な治療を早い段階から行うことで、症状が改善したり、進行を遅らせたりすることができます。

市では、できるだけ住み慣れた地域で暮らし続けられるように、認知症またはその疑いがある人やその家族を早期に支援する「認知症初期集中支援チーム」をトータルサポートセンターに設置し、認知症サポート医や保健師などのチーム員によるサポートをしています。

支援チームの活動内容

支援チームは、かかりつけ医や専門医、瀬戸内市地域包括支援センターなどと連携しながら、本人や家族の状況に応じて、日常生活の支援などを一緒に考えていきます。

チーム員は、
認知症サポート医や
保健師、社会福祉士など



支援チームの対象

市内の自宅で生活している40歳以上で、ご家族の相談などにより認知症が疑われる人や認知症の人で、次のいずれかに該当する人

- 医療および介護保険サービスを受けていない、または中断している
- 医療または介護保険サービスを受けているが、適切なサービスに結びついていない
- 認知症の症状が著しく、ご家族など支援者が対応に困っている

認知症の症状でお困りになったら、まずは

瀬戸内市地域包括支援センター 認知症相談窓口にご相談ください

【相談・問い合わせ先】

- ・瀬戸内市地域包括支援センター(邑久町山田庄 862-1、瀬戸内市総合福祉センター内)
☎0869-24-0001 FAX 0869-24-0061
- ・トータルサポートセンター(邑久町山田庄 862-1、瀬戸内市総合福祉センター内)
☎0869-22-3800 FAX 0869-22-3801



市内で行われている認知症の人やその家族を支える取り組みを紹介します。

認知症カフェ

認知症の人やその家族、地域の人、専門職など誰でも参加できます。参加者は交流しながらゆったりと過ごし、認知症についてもわかりやすく学ぶことができます。

名称	場所	開催日	時間
つくしカフェ	市総合福祉センター	偶数月第1火曜日	午前10時～ 午前11時30分
土師カフェ	土師地域交流サロン	奇数月第2火曜日	
尾張のカフェ	邑久町尾張(個人宅)	毎月第3火曜日	
尻海カフェ	中東俱樂部	毎月下旬ごろ	



▲つくしカフェの様子(4月)



▲つくしカフェの様子(12月)

認知症介護家族の交流会

『認知症介護家族の交流会』は、認知症の人を介護している家族が同じ立場で、悩みを語り、想いを分かち合い、また介護について勉強することで、気分転換できる場として開催しています。

座談会「ホンネで語ろう！介護の悩み」 対象者：認知症の人を介護している人、 介護した経験のある人	場所	開催日	時間
	市総合福祉センター	奇数月第1火曜日	午前10時～午前11時30分

【問い合わせ・申し込み先】

- 瀬戸内市地域包括支援センター(邑久町山田庄 862-1、瀬戸内市総合福祉センター内)
☎0869-24-0001 FAX 0869-24-0061

